「男性に愛される女性6つのヒミツ」書き起こし

こんにちは。このはなさくやです。

わたしがマリッジカウンセラーとして仕事を始めて、10年になろうとしています、うまくいくパートナーシップを築いていくためには、ご自分の潜在意識のパターンを振り返るといって自分自身に働きかけることのほかに、やはりこれは関係性のことで、相手合っただけのことですので、男性と女性のツボの違いという感じ方や考え方の違いについて学んでおくことも、とても大切です。

基本的に男性と女性というのは求めているものが同じでも、それが与えられたときに受け取れるためのかたちが違うと理解しておいてください。

例えば同じ言葉を話しても、男性が受け取る意味と女性が受け取る意味は、全く真逆のことすらあります。

ですので、パートナーに喜んでほしくて、あるいは異性の心をつかみたくて、一生懸命いろいろやってるんだけど、逆効果のことをしてしまったことってよくあると思うんですよ。

で、一生懸命やってるのにうまくいかないという問題を解消するために、今日は男性に愛される女性とは、六つの鍵、というテーマで、お話ししてみたいと思います。

では、男性に愛される六つのヒミツをお話していきましょう。

男性に愛される女性、六つのヒミツ。

【1つ目のヒミツ】

自分を理解してくれる女性を男性は愛します。

さあ、自分を理解してくれる女性っていったときに、いったいどういった女性を指すと思いますか？

男性というのは女性と違って、自分についてあーだこーだって、特に自分の気持ちについて話すということが、あまり得意ではないんですね。

で、女性のほうは、自分は今、何を感じているかっていうことを、感情とこの言語中枢ってというのが比較的つながっているというんでしょうか、感情にスイッチが入ったときには、女性は言葉で自分のことを語るんですけど、男性は逆に感情を感じてるときには寡黙になるんですね。

で、女性のほうが、まあ、彼のほうがいちいち説明しなかったとしても、

仕事に行って帰ってきたときなど、

「ただいま」って帰ってきたときに、「いや～、オレ疲れてるんだよ」ってを言わないんですね。

女性は仕事から帰ってきくると

「あー、疲れた。あなたちょっと聞いてよ～。

会社でこれこれこうこういうことがあってね、上司がこれこれこういうことで、

こういうしょーもないこと押しつけてきてさあ、

んで、こんなムカツクお客が来たのよ～（怒）」

なんてワーツと話しますよね。

逆に、旦那様が会社から帰ってきたときに、

玄関の扉を開けて靴を脱いだとたんにつっ飛んできて、

「ね～ね～ね～、聞いて聞いて！隣の奥さんがね」とか

「ママ友の誰々さんがね」って機関銃のように話したすと思うんですけど、

男性にはそういう芸当はできません。

ですので、自分のほうからいちいち説明するよりも前に、

奥さんのほうが「あ、疲れたのね、お仕事頑張ってきたのね」と、理解してあげる。

これには男性はグッときます。

まだ、結婚していない、お付き合いしている段階の二人でも、

たとえばデートのとき、男性がやむを得ない事情で遅れてきたとき。

男性というのは女性と違って、遅刻の理由っていうのを、

自分のほうからクドクド説明しないというか、できないんですよ。

で、そのときに女性のほうが察知してあげる、理解してあげる。

「ああ、お仕事大変だったんでしょ、おつかれさま。」

これです。

「どうして遅れたの？」ではなく、

「ああ、仕事大変だったんでしょ、おつかれさま」これです。

これが「理解をしてくれる」っていうことなんですね。

基本的に男性っていうのは、誤解をされるのがとても苦手です。

自分が努力をしているとき、頑張っているとき、

自分のほうがわざわざアピールしなくても、「頑張ってるのね」と、

頑張ってるんだっていうことを認めてもらって、評価してもらえると、

「よし、もっと頑張ろう」って、モチベーションがぐぐっと上がるんですよ、男性って

で、このときに言ってまずいNGワードは

「もっと頑張ってるね」これです。

頑張ってることを認めてもらえないで、
頭ごなしに「もっと頑張ってね」って言われるのって、
男性は嫌になってしまうんですね。

で、あとは男性というのは、基本的に男性は強いって言われたりとか、
デキるオトコだってほめられたり尊敬されるのはもちろん好きですけども、
その一方、男性も自分の弱さ、自分も人間なんだ、本当はもろいところもあるんだって
いうことを、ちゃんとわかってくれる女性に心を開きます。

特に、夫婦になったりとか恋人でも付き合いが長くなった場合ですね。

つきあいたてのころは、そりゃ男性ですから、女性にカッコイイところを見せたい、
こういう欲求は強く出ますが、つきあいが長くなってもそれやると、
電池切れしちゃうんですね。

その点、依存の強い女性は、男性だって弱いんだっていうことを許せない、
受け容れられないんですね。

男性がへこんだりしょげたりとか問題を抱えて、苦しそうだったりすると、
自分が寄生する先、まあ、女性を寄生虫みたいな言い方しちゃったら、
女性に怒られるかもしれないけども、
怒られるの覚悟で言っちゃいますけど、
依存の強い女性というのは、ぶら下がる対象である男性が弱音を吐くことを許さないんで
すよ。
自分が依存できなくなるのが怖いからなんですね。

「いや、そんなことないわよ、何を言ってるの？」って言うかもしれませんが、
これ、顕在意識のことではなくて潜在意識の中の恐れのことについて話しているので、
そんなつもりはなくて当然なんです。

自覚してたら当然なおってるはずですから、その依存グセ。

で、依存の強い女性はですね、男性が弱音を吐いたとたんに、
「男のくせに」って言っちゃうんですね。

なんかこう、へとへとになった馬車馬を、「走れ～、走れ～！」とびしびしむち打つような
ことしちゃうんですね。
ムチ打てば頑張って走るはずって思い込んでるんでしょうね。

これはNGです。

ということで、男性から愛される女性、六つのヒミツ。

一つ目のヒミツは「自分を理解してくれる女性」でした。

【2つ目のヒミツ】

では、二つ目のヒミツにいきます。

男性から愛される女性のヒミツ、二つ目。

「反応してくれる女性」です。

反応するっていうのは、喜ぶとか驚くとか、そんな感じなんですよ。

で、男性はクチでは尽くしてくれる女性が好きとか言いますが、それは嘘です。嘘っていうわけでもないんですけど、それは男性自身が自分の中で起きる反応を理解できていません。

尽くしてくれる女性にグッとくるとか、尽くしてくれる女性がいじらしくて好きって口では言っても、あんまり尽くされると、男性は嫌になっちゃうんです。

言葉は悪いですが、あきちゃうんですね。

むしろ男性っていうのは、女性からかいがいしく世話を焼かれるよりも、自分のが女性を喜ばせるのに、生きがいを感じるんです。

で、男性が女性に何かをしてあげたときに、女性が喜ぶ、嬉しそうにする、幸せそうにするっていうかたちで反応してあげる。

まあ、驚くでもいいんですけど。

「打てば響く」という言葉もありますが、反応してあげると、男性は、自分がしたことが意味があったんだ、役に立ったんだっていうことで、とても自信が付くんです。

で、逆に無反応だと男性は自分自身を拒絶されたと思って、自信を失ってしまうんです。

私はマリッジカウンセラーという仕事をしていますから、市場調査の意味もあって、アメリカやヨーロッパのデーティングサイトのチェックをよくするんですよ。マッチコムとかね。ほかにもいろんなのがあります。

要はエロ系ではない、まじめなおつきあいの相手を探している男女のための出会い系サイト、まあ、お見合いサイトですね。

そういったところを見ると、男性の10人中8人か9人までは、

「僕が探している理想の女性」っていうところの項目に、
「僕の冗談に笑ってくれる女性」って書いてあります。

あとは、結婚したカップルのダンナさんの方に、
「なぜ彼女を好きになったんですか？なぜ彼女と結婚するって決めたんですか？」
っていうインタビューをすると、
「僕のつまらないジョークに彼女がゲラゲラ笑ってくれたから。」
っていうことを言う男性、ほんと多いです。

それだけ男性というのは自分のしたことが、
彼女を楽しませた、愉快にした、幸せにした、驚かせた、って、サプライズをあげられた
っていうことに、喜びを感じる生き物なんです。

男性に対しては感謝をしましょう、感謝をするといいですよって、
私、お伝えしてるんですけど。

で、この感謝の反応を返すことにもコツがいるんですね。

コツっていうのは、男性が何かをしてくれたら、「その場で反応すること」です。
後回しはだめです。

で、あとになってからだと、男性も忘れてしまいますし、
男性は何かをしてあげたら、その場で反応がピッと返ってくる、
「打てば響く」っていう感覚が好きなんですよ。

で、その場で反応してもらえると、
自分はこの女性に受け入れてもらってるんだなって感じられます。

正直関係性があまりうまくいっていないカップルの場合は、
あとになってから昔を懐かしむように奥様のほうが
「あのとき、あなたはこうしてくれたわね、これが私嬉しかったわあ〜」っていうふうに、
あとになってから言われると、
自分を懐柔しようとしてるんじゃないかって、旦那のほうが警戒するんですよ。

なので、時間が経ってから言うのは、正直あまり効果がないんで、
男性が何かをしてくれたことを逃さずに、その場で反応を返す。

これが一番ベストです。

そうは言っても、「でも、先生。うちの旦那は、ちっとも与えてくれないんです」とか、
「うちの彼は何もしてくれないんです。感謝のしようがありません」って、
反論なされる方、いらっしゃると思うんですけど、これには理由があります。

彼はあなたに与えたくないわけじゃないんですよ。

与えても喜んでもらえないんじゃないかという、
不安、恐れ、自信のなさをその男性が抱えてることが多いんですね。

で、この原因は、あなたじゃないです。あなたのせいじゃないです。

あなたの前につきあってきた元カノや元の奥さんだったりとか、
あるいは子どもの頃にお母さんを一生懸命喜ばせようとしたのに、
お母さんがダメ出しするだけで、褒めてくれなくていじけちゃったり。

あるいはお母さんがお父さんにしょっちゅうダメだししてるのを見続けたとか。

女性は夫婦仲がうまくいってないと、心理的にダメージを受けて偉いことになりますから、
小さな男の子だった彼が、なんとかママに笑ってほしくて、
あれやったりこれやったりするんだけど、ちっともママが笑ってくれない。

そういったいろいろなことが積み重なって、
「僕は与えても自分の大切な女性を喜ばせることはできない。」って、
与えるっていうことに自信が持てなくて尻込みしていることがあったりすると思います。

なので、まあ、女性は、最初からハンディがあると思って付き合ったほうがいいかもしれません。

で、この与えることに自信のない、与えベタ、与えしぶりをする男性の教育の仕方を
これから私はお伝えしたいと思います。

先ほども言いましたが、出し惜しみをする男性っていうのは、
本当のところは、与えることが決して嫌いなわけじゃないんですよ。

本当は好きなんだけど、やると失敗して惨めな思いをするから、
だからやらないようにしようって、出し惜しみしてるだけです。

ですから、その男性が、勇気を出してあなたに与えても、
ばかにされたりとか、けちょんけちょんに言われたりとか、だめ出しをされるとか、
あるいは無反応とか、感謝してもらえないっていうことがなければ、
つまり相手の女性がちゃんと感謝してくれて、喜んでくれるっていう保証があれば、
男性はいくらだって喜んで与えますよ。

じゃあ、どうしたらいいのってことになりますけど、
男性は基本与えるのが好きですから、
全く何も与えないっていうことは、まずあり得ないです。

女性のほうが気が付きにくいだけで、何かしら、ちょこっとしたことを与えてくれてます。

なので、そのちょこっと与えてくれたことをすかさずキャッチして、喜ぶ。
反応してあげるんです。

で、ちょこっと何かしたあげたことだけで、女性が喜んだときに、男性は、「おや？」って思うんですね。

「あ、喜んでくれた♪」って。

で、気分いいわけですよ。

男性は基本犬と一緒にですから、男性陣、ごめんなさいね。

イヤ、ホント、犬と一緒になんです、本当。ここだけの話。

なので、してあげたことに女性がピッと反応して喜ぶと、もう快感中枢が刺激されるんですね。

なので、じゃあ、もうちょっとあげてみようかな、
じゃあ、これ買ってあげようかな、あるいはこれをしてあげようかな、ってことで、
今度はもうちょっと冒険してみるんですよ。

で、また女性が喜ぶ、嬉しい、おいしい、何でもいいですよ。

そうすると、「うわあ、やった～、僕、嫌がられてないんだ。」
「僕のやってること嫌がられてないんだ、彼女喜んでくれるんだ。」ってことで、
ワンちゃんと一緒にですから、どんどんどんどんやるようになります。

で、例えば、男性が彼女をレストランに連れてったとしましょう。

で、そのときに、男性のほうは、とてもいい気分で
「このワインはフランスのボルドーの何とかっていうところのワイナリーの何とかでね」
って語りだすんですね。

あとはお料理に関しても、
「この野菜はね、オーガニックの野菜で北海道の何とか農場と直接提携してて、
ここのレストランだけのためにこうこうこうしてる特別な野菜なんだよ」とか、
「このお肉はね」とか、「このソースはね」とか、
「どこどこ産の鴨を使って」とかやるわけですよ。

で、そのときに、ウンチクばっか話しやがってとか（笑）
嫌な顔をしないであげてください。

まず聞いてあげる。

で、関心して聞いてあげて、
そしてそのワインが運ばれてきたときに、
「ああ、いい香り。うーん、これ本当に最高」とか、
あとは一口食べて、「ああ、おいしい」ってなったときに、

「そうだろう。そうだろう。やっぱりどこどこ産のワインは最高だろう」とか、
「どこどこ産のラムは最高だろう」みたいな感じで、
まるで自分がそのレストランのオーナーか、シェフでもあるかのように
自慢を始めるんですよ。
男性ってそういう生き物なんです。

で、やっちゃいけないことという、たとえば、デートで映画行くとするじゃないですか。

そのときに、男性が選んで連れてった映画が、つまらないとき。

「なんか、この映画最悪。」「なんか時間のムダだった。」
これは絶対言っちゃダメです。

男性は、自分自身のことについてなんじゃかんじゃ言われるよりも、こういう時の方が堪えるんです。

(ここは女性と反対なんですね。)

女性にしてみたら、「え、別に私、彼のことを悪口言ってるわけじゃなくって、
映画がつまらないって言うだけで、彼には何の関係のないことなのに、
なんでそんなに過剰反応するの？」
って不思議でしようがないかもしれないですよ。

でも男性に「一緒に行った映画、ちっとも面白くなかった」って言うのは、
「アンタはしくじった、アンタはダメなオトコね、」って言うてるのと一緒なんですね。

これは仕事でもそうですが、自分の業績が評価されないと、自分そのものが評価されなかったように男性は受け取ってしまうんですね。

女性を喜ばせられなかった、イコール、自分はオトコとしてデキないやつって、
自分で自分に烙印を押しちゃうんですね、彼らは。

なので、別れたいんでもない限り、これはやらないほうがよろしいかと思います。

で、女性の多くが、男性に対して大きく誤解をしていることにセックスがあるんですね。

男性っていうのは体目当てだとか、男性はやりたいだけなんだとか、
男性はセックスのことしか考えてないとか、ばかにしたような言い方するんですけど、
これは女性の側の大きな誤解です。

今から私が言うこと覚えといてください。

これは合コンのあとのお持ち帰りとかそういうことではなくて、
きちんと一対一の恋人同士で付き合ってるカップル、あるいは結婚しているご夫婦。

要は一対一のパートナーとしてコミットしあっている男女間の間においてなんですけど、

その場合、セックスというのは、実は、男性からの女性に対しての贈り物なんですよ。

わかります？贈り物です。

セックスは男性からの女性への愛情の表現であり、贈り物なんです。

女性が男性からセックスを求められたときに、
「あんた、やりたいだけなんでしょう？私、性欲処理するための道具？」みたいに、
そういうふうにはリアクションしないでください。

セックスってというのは、男性から女性の愛情表現であり、贈り物なんです。

で、そのセックスのときに、女性が無反応だったりすると、
男性は自分を拒絶された、自分の人格そのものを否定されたように受け取ってしまって、
とてもショックを受けるんですね。

ですので、これももちろんケースバイケースですから、
一概には言えないんですけども、
私のところにマリッジカウンセリングにみえる方で、
セックスレスの問題でうちに来られる方の場合、
よくよく話を聞いてみると、そもそもセックスレスになってしまった原因は、
旦那様が奥様を求めたときに、奥様が眠かったとか、疲れてるとか、
あとは、要は乗り気じゃないときに、
「なによ、セックス、セックスってケダモノじゃあるまいし！」みたいな感じで、
ガーンと寝床の中で旦那さん蹴っちゃったりとか、
せっかくの贈り物であるセックスを、なにか汚いもののように言われたりとか、
「なにあんた、セックスのことしか考えてなくて」とか、「あっち行ってよ」とか、
邪険にされてしまうと、
そういうときに男性ってというのは、プレゼントを突き返されたような、
そういう寂しさや悲しさ、ショックを受けるんですよ。

で、こうなってしまうと、セックスレス街道をまっしぐらです。

で、旦那が私を女性として見てくれないっていうふうに、女性はすぐ被害者意識に填っちゃいがちですが、女性は、案外自分の言ってしまった些細な言葉とか、
寝床で旦那の足を蹴ったとか突き飛ばしたとか、自分がしたことを忘れて、被害者になって、
旦那が私を女性として見てくれない、触ってくれないっていうふうに、
自分のしたことを忘れて旦那が、旦那が、っていう人多いんで、これ気を付けてください。

よくよく振り返ってみてください。もちろんこればかりが原因とは言いませんけれども、
もちろんケースバイケースで個別の例を見ていかなければいけないんですけども、
長い間のセックスレスが長く続いているカップルの場合、
案外聞いてみると、こういうことを奥様のほうがやっちゃって忘れてるってこと、

意外と多いです。

これは知っといってください。

【3つ目のヒミツ】

では、男性から愛される女性のヒミツ、3つ目いきますね。

「いきいきして魅力的な女性」が愛されます。

これはどういうことかと言いますと、魅力的な女性っていうのは、
なにも巨乳とかエロいとかそういうことじゃないんですよ。

むしろ何かに打ち込んでいる、自分ばかり見てるんじゃないで、
仕事でもいいし趣味でもいいし、何か目標を持ってそれに一生懸命夢中になってる、
打ち込んでいる女性が男性にとってはキラキラとしてて魅力的なんですね。

で、「何かに打ち込んでる夢中なものがありますか」と言うと、
こう答える女性多いんですよ。

「はい、あります」「何ですか」「彼です。彼に夢中です。彼が私の生き甲斐です」とか、
これはごめんなさい。NGです。

彼以外のことを見つけてください。

というのが、男性っていうのは狩猟民族。男性は基本ハンターですから、
女性を獲物っていう言い方失礼かもしれませんが、男性は自分で仕留めたいんですよ。

で、自分のほうばかり見られるってことはどういうことかという、
カモシカっているでしょ？

そのカモシカをハンターが仕留めるとするじゃないですか。

彼は自分で追いかけて銃を構えてバーンってやってカモシカを仕留めたいのに、
カモシカのほうにガーンって向かってくるみたいな感じで、
男性としてみたら、自分がこう追いかけるはずのカモシカが自分のほうにガーンって来たら
怖いですよ？

あるいはそのカモシカが、何か見てる。夢中になって木の実を食べているとか、
草を食べてる、苔を食べてるでも何でもいいんですけど、
何かに夢中になってほかの物に集中しているときにそーっと近付いてって、
そのカモシカをワッて捕まえたい。

それが男性という生き物なんですよ。

で、自分のほうばかり見られるということはつまり、

女性のほうが「あ、あなた、カモシカが好きなのね。
じゃあ私があなただの好きなカモシカを捕まえてきてあげるわ」って、
女性のほうが自分でカモシカをガッって捕まえてきて、
カモシカの死骸を、ちょっとグロイ話なんですけど、
男性の目の前に「ほおら、あなたの好きなカモシカよ」ドーンって置いてしまうような、
それやられると男性興冷めじゃないですか。

カモシカの死骸を「ほおら、あなたの好きなカモシカよ、どう？」ドーンってやるのと全く同じなので、
彼、彼、彼、彼、彼、彼っていうふうに、彼ばかり見ないようにしてください。

嘘でもいいから、夢中になるもの、友達と趣味を一緒に何かやるのもいいし、
スポーツでもいいし、習いごとでも何でも結構ですから。

あとボランティア活動とかでもいいと思うんですよ。

とにかく彼以外の趣味を持つようにしてみてください。

で、女性っていうのは不思議な生き物で、付き合う人ができちゃうと、
それまでに、例えば、英会話に通ってたのやめちゃうとか、
テニスやってたのやめちゃうとか、趣味をやめちゃうってことしちゃう方多いんですけど
自分のほうばかり見られて、尽くされてばかりいられると、
男性ってだんだん重たく感じるようになってくるんですね。

特に女性が、彼、彼、彼、彼、って彼のことばかり考えて尽くし過ぎて、
疲れた顔してると、なんだか自分が不幸にしてるのかなって、
男性は罪悪感覚えるようになるんです。

で、男性って就職して間もないとか、あるいは転職したばかりとか、
あとはこー一番っていうプロジェクトがあるとかあるじゃないですか。

つまり、男性が奥様以外の何か仕事ですとか、ほかのことでいっぱいいっぱい、
つまり大変なときに、男性っていうのは女性と違って、ながらができないんで、
一つのことに関わってるときは、その一つのことしか考えられないように
脳がすごく単純にできてるんです。

女性っていうのは比較的三つも四つも五つも同時進行できちゃうんですけど、
男性っていうのは一つのことにとらわれてるときには、
ほかのこと本当に考えられないんで、
それは奥様を大事じゃないってことと全く別のことなんですけど、
それができないんで、そのときに奥さんのほうが、旦那が最近私を構ってくれないとか、
あるいは彼からメールがこないとか、デートに連れてってこないってふうに、
ベソベソベソベソやってるんじゃないで、
女性のほうね、要は奥様や彼女のほうが、自分も趣味を持って、
例えば、友達とどっか出かけるでもいいし、何か自分も打ち込めるものを持って、

自分の生活を、自分の生活のリズムで自分で楽しむ。

で、自分で自分を楽しませる力があって、楽天的にその時期を過ごしてくれると、「構ってやれなくて悪いな〜。」っていう、彼の罪悪感があまり刺激されない。

で、自分が構ってやれない分、彼女が一人で自分で自分を楽しませること、自分をハッピーにする力があると、それに男性はものすごく感謝するんですね。

で、その忙しい時期、大変な時期を乗り切ったあとに、「あのときは本当に大変で、何もしてやれなかったんだけど、あのときあいつが、ああやって自分で楽天的にやってくれたから、だからオレ、のりきれたんだよ。」って感謝されます。

こういう、情緒的に健全に自立してる女性を男性は手放せないものです。

ちなみに、自立してるっていうのは、男性を頼らないとか、男性を必要としないっていうことではないです。

自分で自分をハッピーにさせる力があることを「自立している」と言います。

男性っていうのは、自分が大変なときに、女性が深刻になっちゃうとだ、よけいつらくなるんですね。

でも、女性が無邪気にしていて、あっけらかんと楽観だったりすると、男性っていうのは、救われたような気持ちになります。

でも、女性っていうのは男性が大変なときに、愛してる人が大変なときに、自分がハッピーにしていたら悪いんじゃないか、自分も深刻にならないといけないんじゃないかって、つい深刻さにお付き合いしちゃうんですけどね。
女性はずきあいがいいというか、自分も相手と同じ感情を抱いて、感情でつながるのが愛だと思っているところありますからね（笑）

でもそれこそが男性と女性の典型的な違いで、男性にとってはむしろ負担になっちゃうんですね。

大変だねって、相手の状況に理解を示し共感するっていうのと、一緒になって深刻になる、一緒になって苦しんじゃうっていうのは、これ、違いますからね。

理解を示して、彼が一生懸命苦労してることをねぎらいつつも、自分はニコニコ楽天的に朗らかにしててください。

【4つ目のヒミツ】

はい、では、男性から愛される女性のヒミツの4つ目、いきます。

「責めるのではなくて、教育してくれる女性」です。

基本男性っていうのは、罪悪感が強いです。

子どもの頃から男の子っていうのは、お母さんの期待に答えよう、お母さん喜ばせようって、一生懸命いろんなことをして頑張るんですよ。

で、一生懸命やるんだけど、お母さんが喜んでくれない、ダメ出しされる、怒られる、評価してもらえないっていう体験をいっぱいしてきてるんで、男性はそういう意味では実はかなり、ハートブレイクを体験してきているですね。

なので、先ほどの反応してくれる女性っていうところでもわたし言いましたけど、多かれ少なかれ男性は自分の母親を喜ばせて幸せにすることができない、満足させることができないっていう体験をしてきてしまっているんで、女性の皆さんは、お付き合いの始めからハンディがあるぐらいに思っておいてください。

ちなみにこういう男性の教育の仕方ですけど、「うまくいったときに褒める」ということで、自分が何をしてほしいのかを教えるようにしてあげてみてください。

うまくいったときに褒める。うまくいったときに感謝をする。

うまくいかなかったときに、どうしたらいいかというと、うまくいかなかったら、「なんでこれやってくれないのよ？ やってくれるって言ったじゃない」とか、

「なぜできないの？」とか、「あなたっていつもこうよね」とか、「あなたっていつもしてくれないよね」というふうに、責めるとか要求するのではなく、コミュニケーションしてください。

「でも、アタシ、ちゃんと自分の気持ち伝えてるよ？ コミュニケーションちゃんとやってるよ？」

って反ばくする方もいらっしゃると思うんですけど、わたしのいう、“コミュニケーション”は、

「こうしてくれると私嬉しいんだけど」って、「してほしいこと」を伝える、ということです。

で、基本的に男性っていうのは、わんちゃんと一緒、そして男性は潜在意識と、性質が似通ってるんですよ。

潜在意識もそうですよね。あとは子どもも一緒ですね。

男性は、潜在意識と、子どもと、犬に似てます。

潜在意識と子どもと犬の共通点って何だと思いませんか？

「単純」ってことです。男性の方ごめんなさいね。

でも、男性って単純ですよ。

「そうなんだよ、男性は単純なんだよ、よくわかってらっしゃる。」
ってそこで首を縦にブンブン振っている男性がいらっしゃるの、私見えるんですけど、

男性っていうのは、潜在意識や子どもと同じなんで、否定形が通じません。

「何々するな」って言っちゃうと、そのするなっていうことに限ってやっちゃいます。
残念だけどやっちゃいます。

子どももそうでしょ？

「〇〇ちゃん、これやっちゃだめよ。」っていうと、やる。やっちゃうんです。

むしろ、うまくいかなかったとき、望み通りのことをしてもらえなかったときは、
次は望み通りにしてもらうために、

「こうしてくれると嬉しいな。」って、“してほしいこと”、“目標地点”を教えてあげること
です。

ここにたどり着きたいっていうゴールを明確にしてあげること。
で、ゴールが明確になると、男性はスイッチが入ります。

男性脳って基本的に目標志向だからです。
女性脳はプロセス志向ですね？

男性は、目標を設定し直して上げると、それに向かってまた努力を始めます。

そしてうまくいったときに褒めて承認をして感謝を送ってあげてください。
これで男性は報われたような気持ちになります。

繰り返します。

「うまくいったときに承認をする」、
そして、「うまくいかなかったときは、してほしいことをコミュニケーションする」。
この二つです。

男性に愛される女性のヒミツ4つ目は、「責めるのではなくて、教育してくれる女性」でした。

【5つ目のヒミツ】

では5つ目のヒミツに移りたいと思います。

男性から愛される女性、5つ目のヒミツ。

「自分のことだけでなく、相手のことだけに偏るのでもなく、二人のことを考えてくれる女性」です。

これはどういうことかという、よく、女性はわがままなほうがかわいいとか、わがままのほうが愛されるとか、小悪魔とも言いますね。

たしかにこの小悪魔ちゃん、愛されるんですけど、でも短期間ですね。

ガールフレンドとして連れて歩くにはいいんだけどもっていう扱いになっちゃいます。

短い間のお付き合いには、ちょっと気まぐれで、生意気なような、扱いにくいような女性のほうが、

「この女を落としたい。」みたいな感じで、男性の狩猟本能をそそりますんで、男性は夢中になって追いかけますけど、あまり相手のことを考えない、どっちかっていうと自分のことしか考えないタイプ、別の言い方をすれば、依存の強い女性ですね、依存心が強くて自分ことばかりで男性のことも思いやって女性を長い間相手にしてると、男性、疲れてきちゃうんですよ。要求ばかりされて。

「ああしてほしい、こうしてほしい」、まだコレのうちはカワイイかもしれませんが、そのうち、「ああしてくれなきゃヤダ、こうしてくれなきゃヤダ」とかね。しまいには「ああしてくれなきゃヤダ、別れる。」って脅かしたりね。

振り回すタイプっていうんですか？

まあ、こういうタイプの女性は、連れて歩くにはいいけど、生涯長くお付き合いする、真面目なお付き合いをする相手としてはちょっとな～... 結婚する相手にはちょっとな～... っていうことで、男性、引いちゃうんですね。

まあね、こういう女性は自分のことを「気まぐれ子猫ちゃん」みたいに思ってるんですが、ネコと結婚はしませんよね？

逆に自立心の強すぎる女性、つまり、依存心の強い「ちょうだい、ちょうだい」ばかり言ってるタイプと全く逆のタイプの女性のことなんですけど、これまたうまくいかないんですね。

「ちょうだいちょうだい」の逆で、尽くし過ぎっていう極端な方向に走っちゃうんで、これもうまくいきません。

尽くし過ぎの女性は重いです。

尽くし過ぎの女性っていうのは、尽くすっていうことで、無言で「こんだけ尽くしてるんだから、結婚してくれるわよね？」っていうふうに、無言のプレッシャーかけられてるみたいで男性は怖いんです。

なので、ココチューでもなく、彼、彼、彼って、自分のことはほったらかしで彼ばかり

かまっちゃって、彼の幸せが私の幸せってなっちゃいますと、これもまたうまくいかないんですね。

ですから、ジコチューでもなく、尽くし過ぎの犠牲型でもなく、上手にバランスを取って、自分だけでもなく、相手だけでもなく、二人のために、二人でハッピーになるにはどうしたらいいんだろうって、「二人とも」っていう単位で考えてくれる、バランスのとれた女性。

「自分か？」も「相手か？」でもない、二人ともが幸せになれる「第三の道」を発見する力のある、広い視野でものごと考えられる女性に男性はとても心惹かれます。

【6つ目のヒミツ】

では、男性から愛される女性のヒミツの6つめ。最後のヒミツです。

最後のヒミツは、「インスピレーションをくれる女性」です。

女性っていうのはインスピレーションを受け取るのがうまいんですね。直感を受け取るのがうまいです。

古代からシャーマン、巫女っていうのは、たいが女性ですよ。

女性は右脳型っていいですよ。そして男性は左脳型だと。

女性はインスピレーション、直感を受け取るのがじょうずなんですけども、男性は計算をすとか、論理的に考えとか、計画をすとか、分析をすっていう、左脳的なことが得意です。

これはどちらが優れていてどちらが劣っているってことではなく、両方とも等しく必要であり、等しく尊いギフトです。

で、成功している経営者が皆さん口をそろえておっしゃることなんですけど、「女房がやめとけて言ったときはやめたほうがいい。」

成功している経営者は皆さん口をそろえておっしゃいます。

松下幸之助さんとか、稲盛和夫さんとか、あとは日本一の個人投資家って言われてる大株主さん、竹田製菓の竹田和平さん。竹田会長は平成の花咲かじいさんって呼ばれてるんですけどね。

で、そういった面々も、「女房に聞いて、女房がやめとけていったことはやめといたほうがいいと思う。」って皆さん口をそろえておっしゃいます。

これはどういうことかいうと、
奥様に「こういうことをやろう」とか、「こういう商談がきてるんだ」とか、
「こういうプロジェクトをやろうと思う」と言ったときに、
「そうねー。私、深いことよくわからないけどー、うーん。ちょっとあれだわね。
何がどうって理屈ではちょっと言えないんだけど、なんかちょっと変だと思うわ」とか、
「なーんかちょっとこれ、うーん。なんか臭いのよね。なーんかこれ、私、変だと思う」
っていうふうに。

女性のこの、「理屈ではわかんないんだけど、なんかちょっと」ってというのがポイントなんです。

こういうのって、よくよく調べてみると、相手が実は詐欺師だったとか、
そういうこと本当にありますから。

で、ご存知だと思いますけど、詐欺師っていうのは、論理的には全く1ミリも穴のないよ
うな用意周到で疑いのないような論法で攻めてくる。

これが詐欺師なんですよ。詐欺ってそういうものです。

だから、論理的に攻めてくる相手に論理的にやり返そうとしても勝ち目はないですよ。

なので、論理的に水も漏らさないような全く穴のない論法で攻めてくる相手には、
論理を超越するしか手がないんですよ。

で、ここで役に立つのが、「論理的に変じゃないとは別に思うのよ、でも、なーんか変。」
っていう直感ですね。

詐欺師の論理的な、用意周到な全く漏れのないものを打ち破る唯一の武器が、
この女性特有の、「理由はわからないけど、なーんか変」っていう直感の力です。

ただこの直感は、絶えずなにかを心配してるとか、騙されるんじゃないかとか、くよくよ
してることは全く異質のものであることは覚えておいてください。

恐れに捕まってることと、恐れに捕まって絶えずくよくよ心配しつづけるのと、
インスピレーションを受け取って、ひらめきの力で危機を回避するっていうのは、
全く違います。

ちなみにインスピレーションを受け取るためには、リラックスしていることが大切です。

過去のことをくよくよ考えて、「あのときこうすればよかった、ああすればよかった。」っ
て、過去のこと悔やんだりとか、
過去からの延長線上に未来思い描いて、「こうなったらどうしよう、あんならどうしよ
う」って、まだ起こってもいないことを、
「あのときもこうだったじゃないの、このときもこうだったじゃないの、だから今度もこ
うなっちゃうに違いないわ。」って、

くよくよくよくよ心配で頭の中が忙しくなっていると、
インスピレーションが入ってくる隙間がなくなるんですね。

ですので、過去のことにしがみつかない。
そして、起きてもない未来の不安を思い描いて、何とかしようと防衛するのではなくて、
「今・ここにいる」ということを選択してください。

今ここにいるとか、リラックスしてることが大切って言っても、
いや、それが難しいんですよっていうふうにおっしゃる向きもあるかもしれませんが、
今ここにいるってことのやり方について、どうしたら今ここにいることができるのかって
いうことを説明するとなると、1週間くらいのセミナー出来ちゃうんで、
今回はやめておきます。

【まとめ】

はい、以上6項目が、男性に愛される女性の6つのヒミツでした。

では、おさらいいたします。

一つ目のヒミツ。自分を理解してくれる女性。

二つ目のヒミツ。反応してくれる女性。

三つ目のヒミツ。いきいきして魅力的な女性。

四つ目のヒミツ。責めるのではなく教育してくれる女性。

五つ目のヒミツ。自分のことだけでなく、相手のことだけでもなく、
二人のことを考えてくれる女性。

そして最後にインスピレーションをくれる女性。

いかがでしたでしょうか。

女性の皆さんに覚えておいていただきたいのは、先ほども言いましたけれども、
男性って、潜在意識ですとか、わんちゃんですとか、子どもととてもよく似ています。

難しいようですけど、ある意味単純です。

彼らを愛情深く扱ってあげる。

そして、彼らが差し出してくれたものを素直に喜んで受け取ると、
彼らは喜んでもっともっといろんなことに協力してくれたりとか、
自分の持っている宝物を、もっともっと分かち合ってくれるような、
本来彼らはとても愛情深くて気前のいい生き物です。

どうか女性の皆さん、今、お話しした六つのヒミツをしっかりと心の中に刻んで、
もともと愛情深い男性の愛情をもっともっと引き出して、
もっともっと男性の贈り物、愛情を受けとってください。
もっともっと愛されてください。

これが私からの女性の皆さんへのメッセージです。

(終了)

【付録】

昨年11月に出版しました iPhone/iPad 用電子書籍、
「追いかける女の掟 101」の原稿をプレゼントします。
ご笑納ください。

↓↓↓

<http://solar-lunar.sakura.ne.jp/repo/iphone2.pdf>